



第14回温泉フォーラム月例研究会開催のお知らせ

■日時 2010年4月16日(金)10:00~12:00

■会場 上野・東京文化会館4F 中会議室

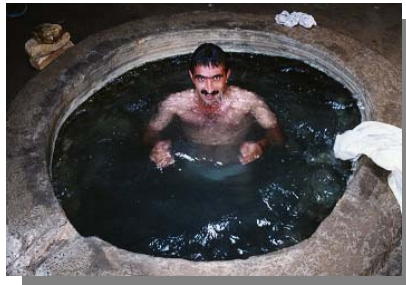
東京都台東区上野公園5-45 TEL 03-3828-2111 JR 上野駅・公園口出て正面すぐです

■参加費 健康と温泉フォーラム会員 2,000 円 一般の方 3,000 円
(当日会場受付で承ります)

■テーマ 「世界の秘湯」-ペルー・イラン編



イラン チャムガレ温泉



ペルー 世界遺産 マチュピチュ



ペルー パーニョス・デル・インカ温泉

■お申し込み・お問い合わせ

NPO 法人健康と温泉フォーラム事務局まで E メールまたは FAX にてお申し込み下さい。

E メール info@onsen-forum.jp FAX 03-3320-0586

NPO 法人健康と温泉フォーラム事務局宛

参加申込書

第14回月例会(2010年4月16日(金))に出席します。

●お名前

●会社名

●住所

●連絡先

TEL

FAX

E メール

■講師 川崎 義巳(かわさき よしみ)

1970 年工学院大学工学部工業化学科卒業

(株)津村順天堂(現ツムラ)入社、入浴に関する基礎研究及び「バスクリン日本の名湯入浴剤」「スキンケア・メイクアップ化粧品」「トイレタリー商品」などの商品開発を担当・化学品研究部長、化粧品研究部長、商品開発研究所開発部長を歴任後 1998 年退職。

現在 NPO 法人健康と温泉フォーラム理事

著書「アチチ君の温泉教室」(民法法研究会)、「イランの温泉を求めて」(文芸社)

■講演要旨 世界の秘湯(ペルー・イラン編)

今日まで健康と温泉フォーラムのメンバーとして、25年以上にわたり、世界各国の温泉地を訪ね、調査研究(例えば温泉の歴史、文化、立地環境、泉質、入浴法、効能効果、管理運営法など)をしてきた。

日本にも秘湯といわれる温泉地が全国各地に存在するが、今回は私が今日まで調査研究してきた温泉地のなかで、日本では殆んど知られていないと思われる「ペルー」と「イラン」の温泉地について御紹介する。

ペルーには全土にわたり温泉が点在しているが特徴的なのは2000m以上のアンデス高地に多いことや、42℃以上の高温泉が多く、湯量や泉質も豊富であることがあげられる。

また、人々は古くから温泉を病気治療、健康維持のために利用し、プレインカ時代からは盛んに使われてきたと伝承されている。今回は北部のカハマルカにあるかつてインカの皇帝が入浴したお風呂が今でも残る秘湯「パーニョス・デル・インカ温泉」と世界遺産で有名なマチュピチュ遺跡の近くにある秘湯「アグアス・カリエンテス温泉」を御紹介する。

一方、イランの人々は紀元前の昔から温泉を利用しギャルマーベ(複合型温浴施設)やカプリカ(病気治療施設)といった施設をつくり積極的に温泉利用をしてきた長い歴史がある。これらは湯治の起源と考えられ、後に古代ローマ帝国やシルクロードを経由して中国、日本へとわたった。また、イランにはイスラム化以前より、水による浄化という概念があり、その風習が今日まで伝承されている。古代からオアシスの町にはバザールを中心としてモスク、神学校、宿舎とハマームと呼ばれる浴場が必ず建てられていたのである。今回はイラン歴史遺産観光局の温泉調査依頼によりイラン全土にわたり約1万キロを車で走破して訪ねた秘湯「23か所の温泉地」の調査研究結果を御紹介する。

「ペルーの温泉」も「イランの温泉」もかつては日本でもみられた温泉の原点を今日も残している。日本の温泉地のような豪華な建物や御馳走はないが、老若男女が温泉にはいり、おしゃべりをして本当に楽しんでいる。温泉とは何かを考えさせられた調査であった。